

1 収益的収支～水道事業の運営に関する収支

- 収益的収支は、1年間の経営活動で発生する収益と費用からなり、企業の経営成績を表す。
- 収益は料金収入が大部分を占める。令和7年度は6か月間の基本料金免除を行った影響で料金収入が減少したが、その分は一般会計から補てんされているため、収支への影響は無し。
- 費用は、維持管理費などと減価償却費（※1）などが大部分を占める。
- 令和7年度は、維持管理費の増加などの影響で、前年度より若干少ない**3.76億円の純利益**となったが、計画値である「**ビジョン値**」を**1.47億円上回った**。

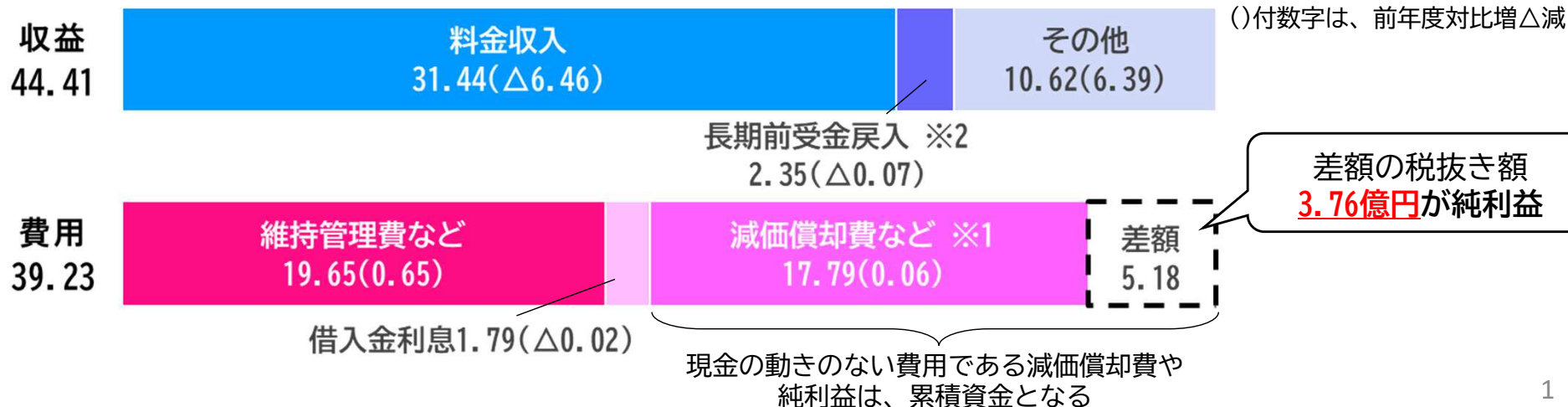
（表・グラフとも 税込み 単位：億円）

			令和6年度 決算額	令和7年度 決算額	増減額	増減率
収益的 収支	収益	水道	42.88	42.73	△ 0.15	△0.3%
		簡易水道	1.67	1.68	0.01	0.6%
		合計	44.55	44.41	△ 0.14	△0.3%
	費用	水道	36.79	37.07	0.28	0.8%
		簡易水道	1.75	2.16	0.41	23.4%
		合計	38.54	39.23	0.69	1.8%
純利益 (税抜)	水道	4.47	4.25	△ 0.22	△4.9%	
	簡易水道	△ 0.13	△ 0.49	△ 0.36	276.9%	
	合計	4.34	3.76	△ 0.58	△13.4%	

（※1）と（※2）については、
次ページで解説

令和7年度 上下水道 ビジョン値	増減額
2.91	1.34
△ 0.62	0.13
2.29	1.47

純利益がビジョンを
1.47億円上回る！



2 資本的収支～設備投資とその財源に関する収支

- 資本的収支は、公営企業の将来の経営活動に備えて行う施設（水道管含む）の建設・更新費用や借入金の返済などの支出と、その財源となる収入からなる。
- 資本的収支では、通常、収入よりも支出額が大きくなり、令和7年度の不足額19.21億円は、次ページで説明する累積資金で補てん。

(表・グラフとも 税込み 単位：億円)

			令和6年度 決算額	令和7年度 決算額	増減額	増減率
資本的 収支	収入	水道	7.37	7.55	0.18	2.4%
		簡易水道	2.20	2.18	△ 0.02	△0.9%
		合計	9.57	9.73	0.16	1.7%
	支出	水道	28.57	26.42	△ 2.15	△7.5%
		簡易水道	2.50	2.52	0.02	0.8%
		合計	31.07	28.94	△ 2.13	△6.9%
	不足額		21.50	19.21	△ 2.29	△10.7%



【用語解説】

(※1)減価償却費…長く使う水道管などの資産の建設費用を、その資産が使用できる年数で割って、毎年の費用として計上する会計処理。帳簿上の処理で、現金の動きはない費用。

(※2)長期前受金戻入…長く使う水道管などの資産の建設時の財源（国の補助金や市の負担金など）を減価償却に合わせて毎年徐々に収益として計上する会計処理。帳簿上の処理で、現金の動きはない収益。

3 累積資金残高～これまで貯めてきた資金

- 累積資金残高は、外部に流出せず、企業内部に残っている資金の額。
- 令和7年度末の残高は、**19.78億円**。前年度末残高は18.38億円だったが、令和7年度中に純利益や現金の動きがない費用である減価償却費などで20.61億円増加した一方、前のページで説明した資本的収支の不足額の補てんで19.21億円使用したため、差し引き1.40億円増加。（下記イメージ図参照）
- 計画値である「**ビジョン値**」を**2.66億円上回っており、健全な経営を維持**できている。

累積資金残高（各年度末）

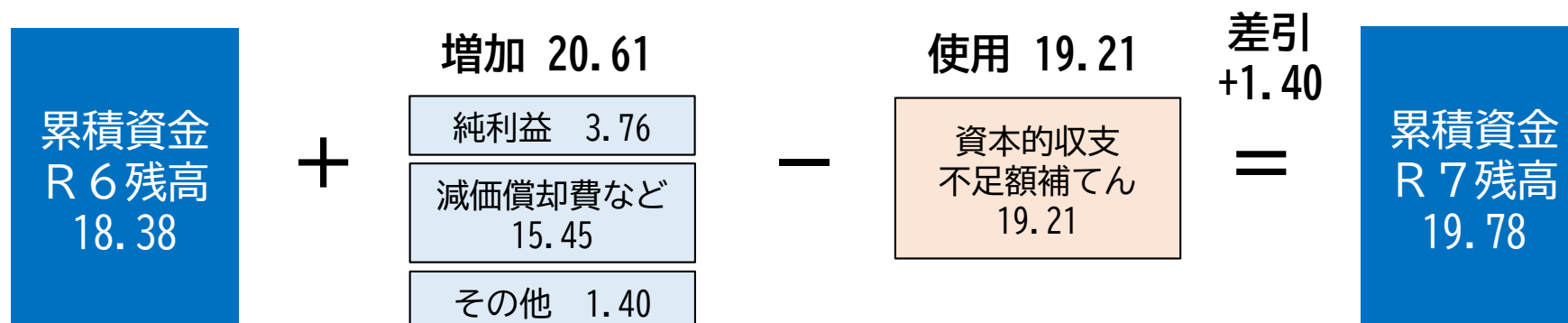
単位：億円

	令和6年度	令和7年度	増減額	増減率
水道	17.59	19.31	1.72	9.8%
簡易水道	0.79	0.47	△ 0.32	△40.5%
合計	18.38	19.78	1.40	7.6%

令和7年度 上下水道 ビジョン値	増減額
16.79	2.52
0.33	0.14
17.12	2.66

【累積資金残高の動き（イメージ）】 単位：億円

ビジョン値を上回っており、
健全経営を維持！



1 収益的収支～下水道事業の運営に関する収支

- 収益は、水道ほどではないが、下水道使用料の占める割合が高い。また、雨水処理にかかる費用は、使用料ではなく、公費（一般会計）で負担するため、水道に比べて他会計負担金が多い。
- 費用は、水道同様、施設や下水道管の維持管理費などと減価償却費などが多くを占める。
- 令和7年度は、前年度より若干少ない**5.70億円の純利益**となったが、計画値である「**ビジョン値**」を**0.82億円上回った**。

(表・グラフとも 税込み 単位：億円)

			令和6年度 決算額	令和7年度 決算額	増減額	増減率
収益的 収支	収益	下水道	50.73	50.80	0.07	0.1%
		農村下水道	1.35	1.49	0.14	10.4%
		合計	52.08	52.29	0.21	0.4%
	費用	下水道	44.33	44.27	△ 0.06	△0.1%
		農村下水道	1.37	1.48	0.11	8.0%
		合計	45.70	45.75	0.05	0.1%
純利益 (税抜)	下水道	5.87	5.68	△ 0.19	△3.2%	
	農村下水道	△ 0.01	0.02	0.03	—	
	合計	5.86	5.70	△ 0.16	△2.7%	

令和7年度 上下水道 ビジョン値	増減額
4.69	0.99
0.19	△ 0.17
4.88	0.82

純利益がビジョンを
0.82億円上回る！

()付数字は、前年度対比増△減

収益
52.29

下水道使用料 29.08(△0.14)	長期前受金戻入 10.82(0.04)	他会計負担金・その他 12.39(0.31)
------------------------	------------------------	---------------------------

費用
45.75

維持管理費など 19.66(△0.03)	減価償却費など 24.09(0.18)	差額 6.54
-------------------------	------------------------	------------

借入金利息2.0(△0.10)

現金の動きのない費用である減価償却費や
純利益は、累積資金となる

差額の税抜き額
5.70億円が純利益！

2 資本的収支～設備投資とその財源に関する収支

- 資本的収支は、公営企業の将来の経営活動に備えて行う施設（下水道管含む）の建設・更新費用や借入金の返済などの支出と、その財源となる収入からなる。
- 資本的収支は、通常、収入よりも支出額が大きくなり、令和7年度の不足額13.19億円は、次ページで説明する累積資金で補てん。

(表・グラフとも 税込み 単位：億円)

			令和6年度 決算額	令和7年度 決算額	増減額	増減率
資本的 収支	収入	下水道	10.95	17.57	6.62	60.5%
		農村下水道	0.44	0.70	0.26	59.1%
		合計	11.39	18.27	6.88	60.4%
	支出	下水道	24.27	30.25	5.98	24.6%
		農村下水道	0.85	1.21	0.36	42.4%
		合計	25.12	31.46	6.34	25.2%
	不足額		13.73	13.19	△ 0.54	△3.9%

収入
18.27



()付数字は、前年度対比増△減

国補助金など・その他7.84(3.59)

不足額13.19億円は、
累積資金で補てん

支出
31.46



3 累積資金残高～これまで貯めてきた資金

- 累積資金残高は、外部に流出せず、企業内部に残っている資金の額。
- 令和7年度末の残高は、**26.44億円**。前年度末残高は19.61億円だったが、令和7年度中に、純利益や現金の動きがない費用である減価償却費などで20.02億円増加した一方、前のページで説明した資本的収支の不足額の補てんで13.19億円使用したため、差し引き6.83億円増加。（下記イメージ図参照）
- なお、令和6年度以降、污水处理施設等の整備については、交付税措置を最大限活用するため、**可能な限り企業債を追加借り入れ**しており、整備の財源として累積資金を使う必要がなくなったため、累積資金残高が増加傾向。
- 追加借り入れの令和7年度末残高8.46億円を除いた**実質の累積資金残高は17.98億円**で、計画値である「**ビジョン値**」を**1.91億円上回っており、健全な経営を維持**できている。

累積資金残高（各年度末）

単位：億円

	令和6年度	令和7年度	増減額	増減率
下水道	19.60	26.43	6.83	34.8%
農村下水道	0.01	0.01	0.00	0.0%
合計	19.61	26.44	6.83	34.8%
合計（污水追加借入除く）	16.15	17.98	1.83	11.3%

令和7年度 上下水道 ビジョン値	増減額
25.29	1.14
0.00	0.01
25.29	1.15
16.07	1.91

ビジョン値を上回っており、**健全経営を維持！**

【累積資金残高の動き（イメージ）】 単位：億円

